

魚種（海域）：スケトウダラ（道東太平洋海域）

担当水試：釧路水産試験場

要約表

評価年の基準 (2012年度)	資源評価方法	2012年度の 資源状態	2012～2013年度 の資源動向
2012年4月1日 ～2013年3月31日	トロールのCPUE	中水準	減少

*生態については、別紙資料「生態表」を参照のこと。

1. 漁業

(1) 漁業の概要

道東太平洋海域のスケトウダラ漁獲量は、トロールとかけまわしの沖合底びき網漁業（以下、沖底とする）が約9割を占めている。漁期は9～5月で、6～8月が休漁期である。当海域はスケトウダラ太平洋系群の成育場および索餌場として利用されている。当海域で成熟したスケトウダラは、その多くが噴火湾周辺に回遊して産卵するが、一部は当海域でも産卵する¹⁾。そのため、12～3月の産卵期には、当海域でも産卵親魚を対象にした沿岸漁業（すけとうだら固定式刺し網漁業など）が行われる。

沖底は十勝振興局管内でかけまわし2隻、釧路振興局管内では、かけまわし7隻、トロール8隻が操業している。すけとうだら固定式刺し網の振興局別許可隻数は、十勝15隻、釧路76隻、根室59隻となっている（2012年6月調べ）。1987年から行われていた韓国船による漁獲は、日韓漁業協定に基づき、2000年以降行われていない。

(2) 現在取り組まれている資源管理方策

1997年よりTAC対象種に指定されており、漁獲量が管理されている。

未成魚保護のための資源管理協定に基づく体長または全長制限が実施されている。体長制限は、体長30cmまたは全長34cm未満の漁獲は20%を超えてはならず、20%を超える場合は漁場移動等の措置を講ずることとされている。

2. 評価方法とデータ

・漁獲量

沖底の漁獲量には、北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計の中海区「道東」の集計値を用いた（ただし東北根拠の沖底船による漁獲量は含まない）。

沿岸漁業の漁獲量には漁業生産高報告を用いた（集計範囲：十勝振興局管内～根室振興局管内）。ただし、1997年以前の釧路振興局管内の沿岸漁業の漁獲量は、その他刺し網漁業の漁獲量を含まない。また、根室振興局管内は太平洋側に面した市町村（根室市）のみ集計した。なお、2011年度は根室市の歯舞地区の漁獲量が例年より多くなっており、なお

かつその大半がこれまでほとんど漁獲のなかった根室海峡側の海域での漁獲であったため、歯舞地区の漁獲量（知事許可のすけとうだら刺し網およびすけとうだらはえなわ漁業の漁獲量を除く）を特に根室海峡の漁獲量として道東太平洋海域の集計からは除外した。2011～2012年度は水試集計速報値も用いた。

・ 沖底の CPUE

北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計から中海区「道東」の漁獲量とスケトウダラ有漁曳網回数（試験操業を含まない）をトロールとかけまわしの漁法別に集計した。漁法別に有漁曳網1回当たりの平均漁獲量を求めCPUEとした。なお、1996年度以降は日別、それ以前は月別集計されたデータを用いた。

・ 道東太平洋における 1, 2 歳魚の推定分布量

5月に試験調査船北辰丸を用いて、計量魚探調査およびトロール調査を実施した。計量魚探は、1998～2002年の調査ではFQ-70（古野電気社製）、2003年以降ではEK60（KONGSBERG社製）を用いた。調査範囲は襟裳岬から納沙布岬までの水深50～500mの海域。計量魚探調査で得られたスケトウダラの反応量と、トロール調査および生物測定で得られた年齢組成から、海域、年齢別の反応量および平均のスケトウダラ1個体の入射音圧と反射音圧の比（TS）を求め、反応量を平均TSでそれぞれ除算することにより、年齢別分布量を推定した²⁻⁴⁾。TSは次式により算出した。

$$TS = 20 \log (FL) - TScm$$

ここで、FLは尾叉長、TScmは尾叉長を1cmで基準化したTSで-66dB⁵⁾とした。

・ 道東太平洋におけるトロール調査の0歳魚のCPUE

11月に試験調査船北辰丸を用いて、広尾沖、大津沖、厚岸沖にてトロール調査を実施した。トロール調査で漁獲された0歳魚の曳網1km当たり漁獲尾数を求めた後、年ごとの平均値を0歳魚のCPUEとした。

・ 沿岸漁業の年齢別漁獲尾数

主漁期の2～3月に道東太平洋の沿岸漁業の漁獲物測定、および耳石による年齢査定を行い、平均体重および年齢組成を算出した。漁獲量を平均体重で除して得た漁獲尾数に年齢組成を乗じて年齢別漁獲尾数を算出した。

3. 資源評価

(1) 漁獲量および努力量の推移

表1と図1に道東太平洋における沖底のスケトウダラ漁獲量を示した。沖底の漁獲量は、1975～1991年度にはおよそ5～8万トンの範囲にあり比較的安定していたが、1990年代は、3～9万トンの範囲でやや大きな変動をしている。近年では、2004～2006年度に年々減少し、2007～2009年度に年々増加した後、2011年度には、TACが期中改定により増枠された影響もあり、7.0万トンに増加した。2012年度の漁獲量は、前年度より減少し6.1万トンであった。また、2000年代以降、かけまわしの漁獲量の比率が、トロールと同程度まで高まっ

ている。

表 1, 図 2 に沖底の曳網回数を示した。2012 年度の沖底の曳網回数は, トロールは前年を下回り, 1972 年度以降で 2 番目に低い 3,010 回であったが, かけまわしは, 前年を上回る 8,853 回であった。近年の曳網回数には, TAC を超える可能性がある場合に水揚げ量を制限する操業形態が影響していると考えられる。スケトウダラ狙い操業の曳網回数は, トロールについては, 有漁曳網回数と同様の傾向を示していたが, かけまわしについては, 2000 年度以前は特に有漁曳網回数よりも低い値を示し, 全体の傾向も変動はあるものの, ほぼ横ばいであるというように, 有漁曳網回数とは異なる傾向を示した(表 2, 図 2)。

また, 沖底のスケトウダラ狙い(スケトウダラ漁獲量が全体漁獲量の 50%以上の場合)操業の漁獲量も, 同様の傾向を示した(表 2, 図 1)。

表 1 と図 3 に沿岸漁業の漁獲量を示した。2002 年度, 2003 年度には 1985 年度以降で最低レベルの 2 千トン以下となったが, 2005 年度には 6.5 千トンにまで回復した。2006 年度に 4.3 千トンに減少して, それ以降, 横ばい傾向であったが, 2011 年度は大きく減少した。2012 年度は前年度を大きく上回る 5.3 千トンであった。

表 3 に当海域のスケトウダラに関連する TAC の推移を示した。2012 年度の TAC は, 期中改定での増枠が行われ, 大臣管理分が 11.1 万トン(道東・道南・東北の太平洋海域の合計), 北海道知事管理分の道東太平洋のすけとうだら固定式刺し網とその他が, それぞれ 3,700 トンおよび若干であった。なお, 2013 年度の上記 TAC は, 大臣管理分が 10.1 万トン, 北海道知事管理分の道東太平洋のすけとうだら固定式刺し網とその他が, それぞれ 3,400 トンおよび若干と前年度当初値と同じ値に設定されている。

(2) 現在(評価年)までの資源状態

図 4 に 5 月の道東太平洋におけるスケトウダラ 1, 2 歳魚の分布量を示した。1998 年級群以降では, 2000 年級群が 1, 2 歳時は, とともに分布量が多かったことが確認されている。2001 年級群については 1 歳での分布量は多かったものの, 2 歳では少なくなっていた。2002 ~2011 年級群については高豊度な分布は捉えられていないが, 2003, 2004, 2011 年級群の 1 歳魚の分布量, 2003, 2005, 2007, 2009 年級群の 2 歳魚の分布量が他の年と比べて, やや多くなっている。この 1, 2 歳魚の分布量から加入状況を判断すると, 2000 年級群以降, 高豊度と判断される年級群は見られなかった。

図 5 に 11 月の道東太平洋におけるスケトウダラ 0 歳魚のトロール調査での CPUE を示した。1995 年級群以降では 1995, 2001, 2003, 2005 年級群がほかの年に比べて高かった。

表 1 と図 1 に沖底の CPUE を示した。トロールの CPUE はかけまわしの CPUE よりも当海域のスケトウダラの資源状態を良く表していると考えられる。近年のトロールの CPUE は, 計量魚探調査で豊度が高いと推定された 2000 年級群の漁獲加入により 2002~2003 年度にかけて増加したが, 2004~2006 年度には 2000 年級群の衰退にともない減少傾向を示した。2007~2009 年度に再び増加傾向となり, 2010 年度に減少した後, 2011 年度には再び増加

したものの、2012年度には8.3トン/曳網と前年よりも減少した。

図6,7,8に当海域における沿岸漁業および沖底による年齢別漁獲尾数を示した。沿岸漁業の漁獲尾数が2003～2005年度に増加した後、2006年度に減少したのは、高豊度と推定されていた2000年級群の加入と減少によるものと考えられる。その後の漁獲尾数は、2008年度までは2003年級群の加入によって横ばい傾向で推移し、2009～2010年度にかけては漁獲の主体となった2005年級群の加入減少に伴い増減したが、2011および2012年度は2007,2008年級群が比較的多かったため増加傾向を示した。沖底の漁獲尾数が、2002～2003年度に増加し、2004～2006年度に減少した後、2008～2009年度に増加し、2010年度に減少した後2011年に増加しているのも、同様に2000,2005,2007および2008年級群の加入と減少によるものと考えられるが、2012年については2008年級群が沿岸漁業ほどは増加しなかったために減少した。2005年級群については、0歳時のトロールCPUEは高かったものの(図5)、計量魚探で調査された1～2歳時には豊度が高い年級群とは見られておらず(図4)、4歳になって太平洋系群全体の中で卓越発生群と認められるようになり、若齢期の分布生態が過去の高豊度年級群とは異なっていた可能性がある⁶⁾と見られている。2012年度については、7歳になった2005年級群が前年度よりもさらに減少しており、漁獲の主体となる沖底で後続となる2007～2009年級群がそれほど多くはなかったため、漁獲尾数は前年度より減少した。

当海域で成熟したスケトウダラの多くが産卵回遊する¹⁾道南太平洋海域における2012年度の年齢別漁獲尾数及び資源尾数は、2005年級群が減少したものの、後続の2006,2007年級群が、豊度の低かった2001～2004年級群を上回っていたため、依然高い水準を維持している⁷⁾。

(3) 評価年の資源水準：中水準

当海域において、沖底のトロールのCPUEは、海域のスケトウダラ漁獲量の半分以上を占め、かけまわしのCPUEよりも高豊度年級群の動向をよく表しており、当海域の本種の資源状態を良く表してきたと考えられること、一方で、かけまわしのCPUEは、1日の操業の中で狙う魚種を切り替えて操業していることがあり、正確なスケトウダラの漁獲努力量を調べるのが困難なため、資源状態を正確には反映していないと考えられることから、トロールのCPUEを用いて資源水準を判断した。1990～2010年度の平均値を100として、100±40の範囲を中水準、その上下をそれぞれ高水準、低水準と定義し資源水準を判断した。2012年度の水準指数は106で、中水準と判断された(図9)。

(4) 今後の資源動向：減少

道東太平洋では、2005年級群のような豊度の高い年級群が3～4歳時に、資源状態を表していると考えられるトロールのCPUEが上昇し、5歳以降になると低下する傾向が見られる。従って、今後の資源動向を判断するにあたり、次年度3～4歳となる2009～2010年級

の豊度が重要と考えられる。

次年度4歳となる2009年級群は、沖底漁業の2～3歳時の漁獲尾数（図7）、計量魚探調査での2歳時の分布量（図4）0歳時のトロールCPUE（図5）のいずれを見ても2007年級群なみと見られており、太平洋系群全体の資源評価⁶⁾からも2006、2007年級群とほぼ同程度で、2005年級群並みの豊度は無いと判断される。3歳となる2010年級についても、沖底漁業の2歳時の漁獲尾数、計量魚探調査、太平洋系群全体の資源評価から判断して2006および2007年級群を下回ると予想され、2005年級群並みの豊度は無いと判断される。

以上より、次年度漁獲対象資源の中心となる3～4歳魚の豊度は4歳魚となる2009年級群、3歳魚となる2010年級群ともに2005年級群のような豊度の高い年級群ではないと判断される。これまで漁獲を支えてきた2005年級群はさらに衰退すると考えられ、後続の年級群の豊度をみても2005年級群程ではないと見られることから、次年度の資源は減少すると見込まれるので、当海域の資源動向を「減少」と判断した。なお、2歳で新規加入する2011年級群は0歳時のトロールCPUEと計量魚探調査の結果とも2006年級を上回る分布量であり、太平洋系群全体の資源評価でもこの年級群を上回ると予測されている。

4. 文献

- 1) 濱津友紀，八吹圭三：北海道東部太平洋沿岸に分布するスケトウダラ *Theragra chalcogramma* の産卵回遊と産卵場．北水研報告，59，31-41（1995）
- 2) 志田修：北海道東部太平洋海域におけるスケトウダラの年齢別分布水深．北水試研報，63，9-19（2002）
- 3) 本田聡：北海道太平洋海域に分布するスケトウダラを対象とした音響調査 水産音響資源調査マニュアル，独立行政法人水産総合研究センター，6-22（2004）
- 4) 本田聡：音響資源調査によるスケトウダラ (*Theragra chalcogramma*) 太平洋系群の若齢魚の年級豊度推定．水研センター研報，12，25-126（2004）
- 5) Foote, K. G. and J. J. Traynor : Comparison of walleye pollock target strength estimates determined from *in situ* measurements and calculations based on swim bladder form. J. Acoust. Soc. Am., 82, 9-17(1988)
- 6) 森賢，船本鉄一郎，山下夕帆，千村昌之：平成24年度スケトウダラ太平洋系群の資源評価．平成24年度我が国周辺水域の漁業資源評価 第1分冊．東京，水産庁増殖推進部・独立行政法人水産総合研究センター，392-440（2013）
- 7) 栽培水産試験場：スケトウダラ（道南太平洋海域）．2013年度水産資源管理会議評価書．北海道立総合研究機構水産研究本部．2013．（オンライン），入手先〈<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/central/kanri/SigenHyoka/index.asp>〉

表1 道東太平洋における沖合底びき網漁業および沿岸漁業の
スケトウダラ漁獲量, 曳網回数, CPUEの経年変化

(単位:トン)

年度	沖合底びき網漁業						沿岸漁業			
	トロール			かけまわし			沖底合計 漁獲量	十勝・釧路 漁獲量	根室 漁獲量	沿岸合計 漁獲量
	漁獲量	曳網回数	CPUE	漁獲量	曳網回数	CPUE				
1972	122	1,409	0.09	7,133	27,560	0.26	7,255			
1973	8,117	7,372	1.10	2,640	15,926	0.17	10,757			
1974	23,972	8,197	2.92	3,757	16,080	0.23	27,729			
1975	41,296	10,325	4.00	10,969	18,205	0.60	52,265			
1976	75,307	11,316	6.65	7,210	14,171	0.51	82,517			
1977	54,029	8,631	6.26	12,527	12,404	1.01	66,556			
1978	42,376	9,566	4.43	16,788	14,114	1.19	59,164			
1979	39,582	10,129	3.91	15,690	11,931	1.32	55,272			
1980	45,026	9,421	4.78	17,972	9,732	1.85	62,998			
1981	61,127	10,570	5.78	11,716	9,762	1.20	72,843			
1982	58,912	9,294	6.34	6,243	9,054	0.69	65,155			
1983	61,925	8,969	6.90	6,097	9,306	0.66	68,022			
1984	72,677	9,334	7.79	8,641	11,248	0.77	81,318			
1985	60,337	10,694	5.64	10,420	13,185	0.79	70,758	7,522	944	8,466
1986	42,110	7,031	5.99	14,402	13,650	1.06	56,512	4,954	1,118	6,072
1987	45,482	7,166	6.35	12,254	12,108	1.01	57,736	3,991	598	4,590
1988	50,250	6,966	7.21	13,483	13,474	1.00	63,733	2,644	732	3,376
1989	47,654	8,134	5.86	8,171	11,247	0.73	55,824	1,970	361	2,331
1990	51,367	8,196	6.27	9,771	12,530	0.78	61,138	1,554	1,426	2,980
1991	42,355	5,699	7.43	19,065	11,871	1.61	61,420	1,543	965	2,508
1992	21,440	4,138	5.18	10,851	9,737	1.11	32,291	1,987	1,109	3,096
1993	37,582	4,666	8.05	16,763	10,511	1.59	54,345	861	907	1,768
1994	45,477	5,578	8.15	21,973	10,085	2.18	67,451	1,145	1,792	2,937
1995	28,523	5,811	4.91	14,853	9,142	1.62	43,377	3,850	3,949	7,799
1996	23,795	5,610	4.24	7,760	10,296	0.75	31,555	1,611	2,410	4,021
1997	64,684	5,508	11.74	21,340	12,376	1.72	86,024	1,798	1,891	3,689
1998	43,563	4,294	10.15	27,581	12,106	2.28	71,144	2,876	2,799	5,675
1999	49,178	3,864	12.73	27,738	10,948	2.53	76,917	3,038	2,234	5,272
2000	42,431	4,368	9.71	38,724	10,636	3.64	81,155	4,202	1,464	5,666
2001	20,001	4,833	4.14	22,508	10,387	2.17	42,509	2,093	1,758	3,851
2002	35,010	4,406	7.95	24,561	9,006	2.73	59,572	898	440	1,338
2003	43,988	4,593	9.58	23,436	7,522	3.12	67,424	1,000	859	1,860
2004	38,743	4,629	8.37	19,744	6,777	2.91	58,487	3,338	2,043	5,380
2005	31,008	4,726	6.56	22,434	7,074	3.17	53,442	3,420	3,080	6,500
2006	29,261	5,186	5.64	21,206	7,272	2.92	50,467	2,572	1,715	4,287
2007	34,012	4,586	7.42	19,372	7,386	2.62	53,384	3,125	1,266	4,391
2008	32,879	4,053	8.11	24,418	6,156	3.97	57,297	1,975	2,169	4,143
2009	34,267	3,734	9.18	29,489	7,165	4.12	63,756	2,357	2,814	5,172
2010	30,335	3,908	7.76	29,948	7,604	3.94	60,283	1,564	2,774	4,339
2011	34,135	3,429	9.95	36,414	6,655	5.47	70,549	1,528	937	2,464
2012	24,837	3,010	8.25	37,075	8,853	4.19	61,911	1,965	3,307	5,272

資料: 沖底: 北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計, 中海区「道東」, 東北根拠船は含まない。

曳網回数は有漁曳網回数。

沿岸漁業: 漁業生産高報告, 漁期年: 4月~翌年3月, 2011年度および2012年度は水試集計速報値を含む。

表2 道東太平洋における沖合底びき網漁業のスケトウダラ
狙い操業における漁獲量, 曳網回数, CPUEの経年変化

(単位:トン)

年度	トロール			かけまわし			年度	トロール			かけまわし		
	漁獲量	曳網回数	CPUE	漁獲量	曳網回数	CPUE		漁獲量	曳網回数	CPUE	漁獲量	曳網回数	CPUE
1980	44,607	7,595	5.87	16,149	3,996	4.04	1997	64,354	4,643	13.86	19,454	5,460	3.56
1981	60,948	9,537	6.39	10,399	3,550	2.93	1998	41,679	3,547	11.75	25,783	6,941	3.71
1982	58,755	9,073	6.48	5,179	4,190	1.24	1999	48,794	3,423	14.25	26,848	5,215	5.15
1983	61,442	8,413	7.30	4,723	2,887	1.64	2000	41,613	3,912	10.64	38,025	8,321	4.57
1984	72,396	9,170	7.89	6,476	3,586	1.81	2001	19,374	3,627	5.34	21,321	7,303	2.92
1985	58,641	9,688	6.05	7,125	4,922	1.45	2002	34,636	3,909	8.86	23,431	5,379	4.36
1986	41,888	6,901	6.07	12,218	7,213	1.69	2003	43,740	4,058	10.78	22,690	4,786	4.74
1987	44,674	6,594	6.77	10,184	5,427	1.88	2004	38,665	4,280	9.03	18,942	4,361	4.34
1988	49,929	6,543	7.63	10,983	6,223	1.76	2005	30,971	4,508	6.87	21,988	5,349	4.11
1989	47,306	7,581	6.24	6,501	3,141	2.07	2006	29,193	4,809	6.07	20,247	5,372	3.77
1990	49,942	7,224	6.91	7,755	3,699	2.10	2007	33,950	4,335	7.83	18,195	5,713	3.18
1991	41,181	5,109	8.06	17,370	8,461	2.05	2008	32,772	3,930	8.34	23,335	4,745	4.92
1992	20,278	3,118	6.50	8,597	3,781	2.27	2009	34,193	3,486	9.81	28,614	6,031	4.74
1993	35,786	3,968	9.02	15,667	6,165	2.54	2010	30,253	3,670	8.24	26,229	6,095	4.30
1994	43,738	4,976	8.79	21,307	7,547	2.82	2011	34,100	3,293	10.36	34,960	6,330	5.52
1995	25,080	3,816	6.57	14,330	6,154	2.33	2012	24,735	2,610	9.48	36,191	6,434	5.62
1996	22,501	3,895	5.78	6,731	3,880	1.73							

資料: 沖底: 北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計, 中海区「道東」, 東北根拠船は含まない。

表3 太平洋海域におけるスケトウダラのTAC(改定後)の推移

(単位:トン)

年度	大臣管理分	道東太平洋の北海道知事管理分		
	沖合底びき網 (道東・道南・東北の合計)	すけとうだら 固定式刺し網	その他	計
2001	145,000	6,900	若干	8,500
2002	131,000	6,300	若干	7,600
2003	112,000	6,200	若干	7,400
2004	112,000	6,200	若干	7,400
2005	100,000	4,100	若干	5,000
2006	101,000	3,100	若干	4,000
2007	92,000	3,000	若干	3,900
2008	101,000	4,400	若干	5,600
2009	101,000	3,400	若干	4,600
2010	102,000	3,400	若干	4,600
2011	113,000	3,700	若干	5,100
2012	111,000	3,700	若干	5,000
2013	101,000	3,400	若干	4,600

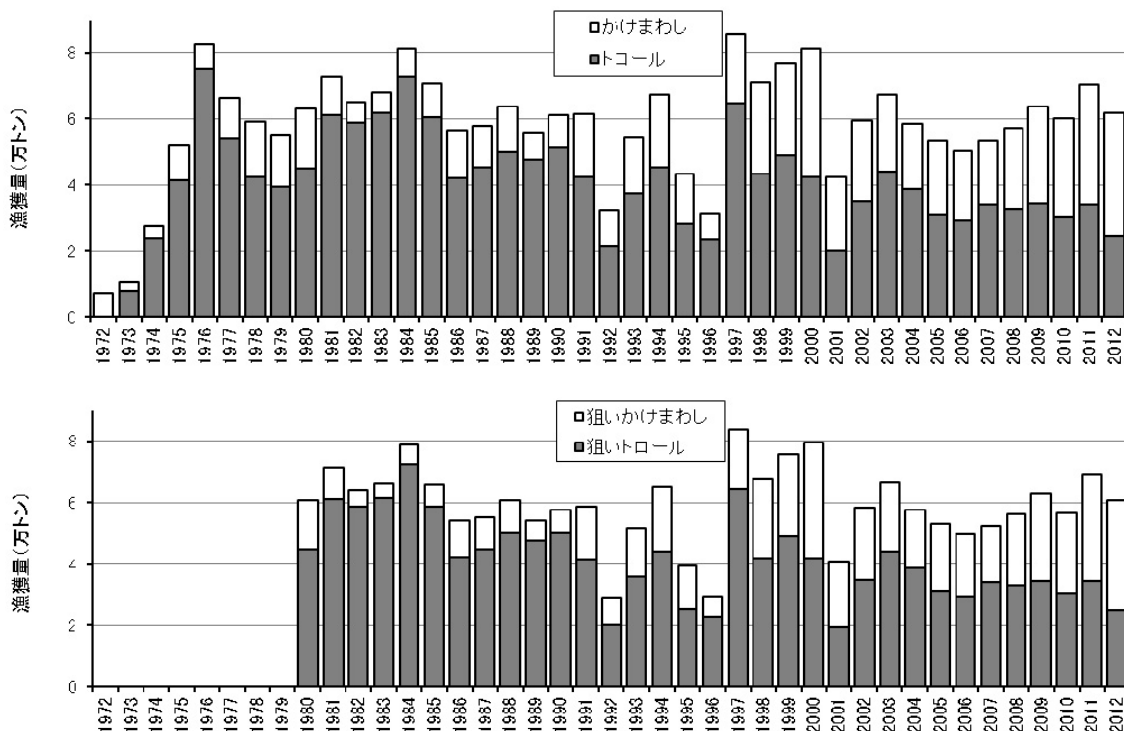


図1 道東太平洋における沖合底びき網漁業によるスケトウダラの漁獲量(上), スケトウダラ狙い漁獲量(下)の経年変化

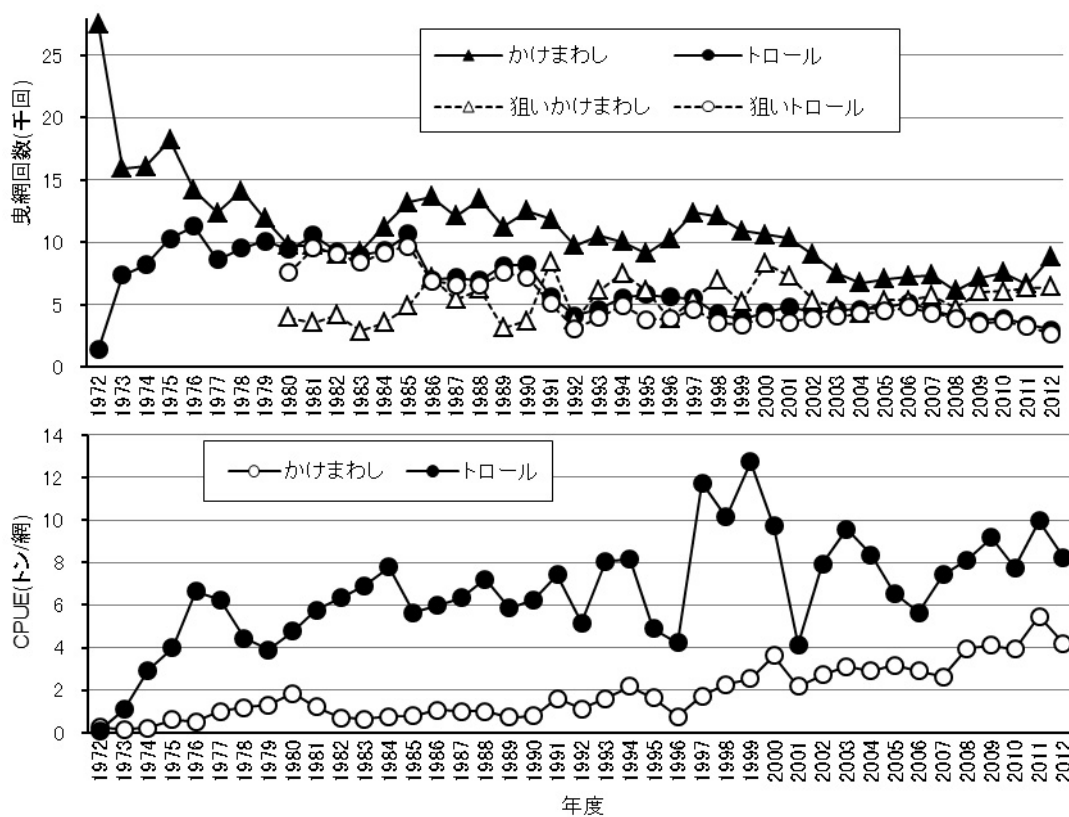


図2 道東太平洋における沖合底びき網漁業によるスケトウダラの曳網回数(上), CPUE(下)の経年変化

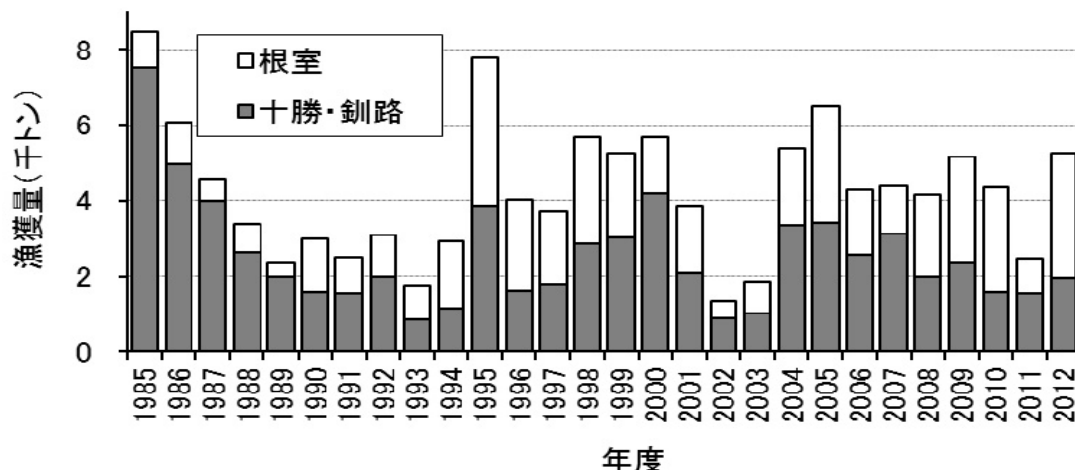


図3 道東太平洋における沿岸漁業によるスケトウダラ漁獲量の経年変化

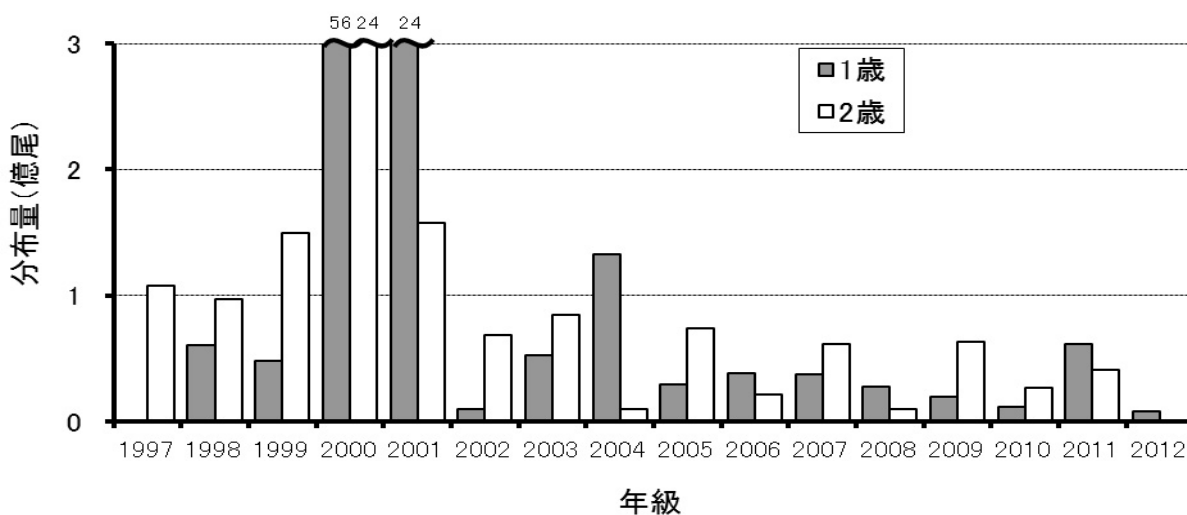


図4 5月の道東太平洋におけるスケトウダラ1, 2歳魚の年級別分布量
(北辰丸による計量魚探調査, 調査海域は付図1参照。)

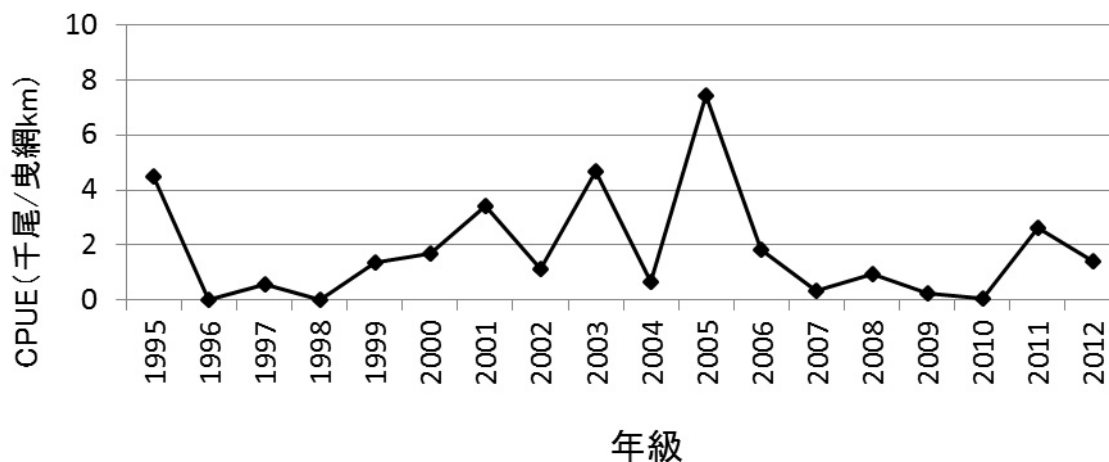


図5 11月の道東太平洋におけるスケトウダラ0歳魚の年級別 CPUE
(北辰丸によるトロール調査)

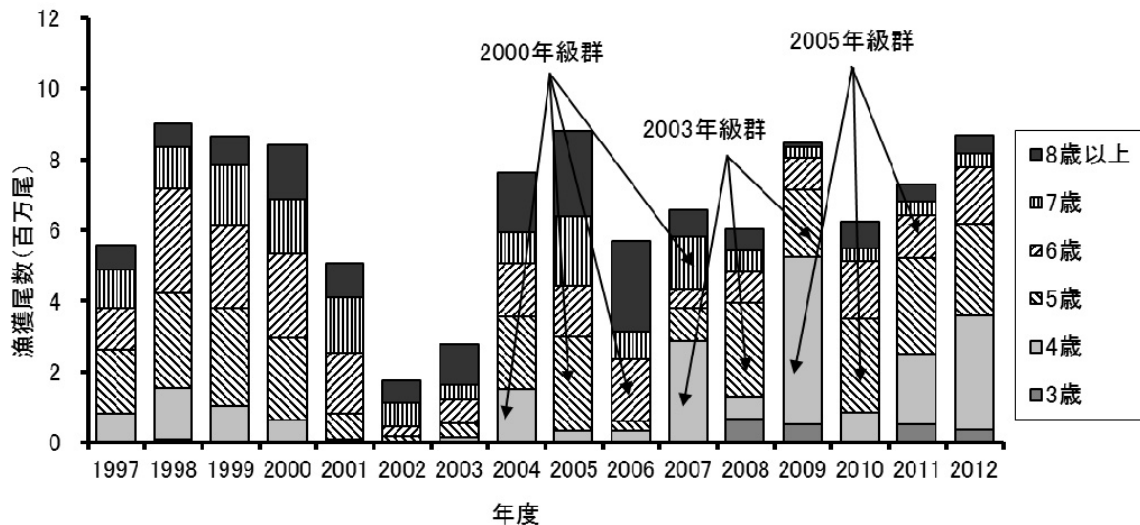


図6 道東太平洋における沿岸漁業によるスケトウダラの年齢別漁獲尾数

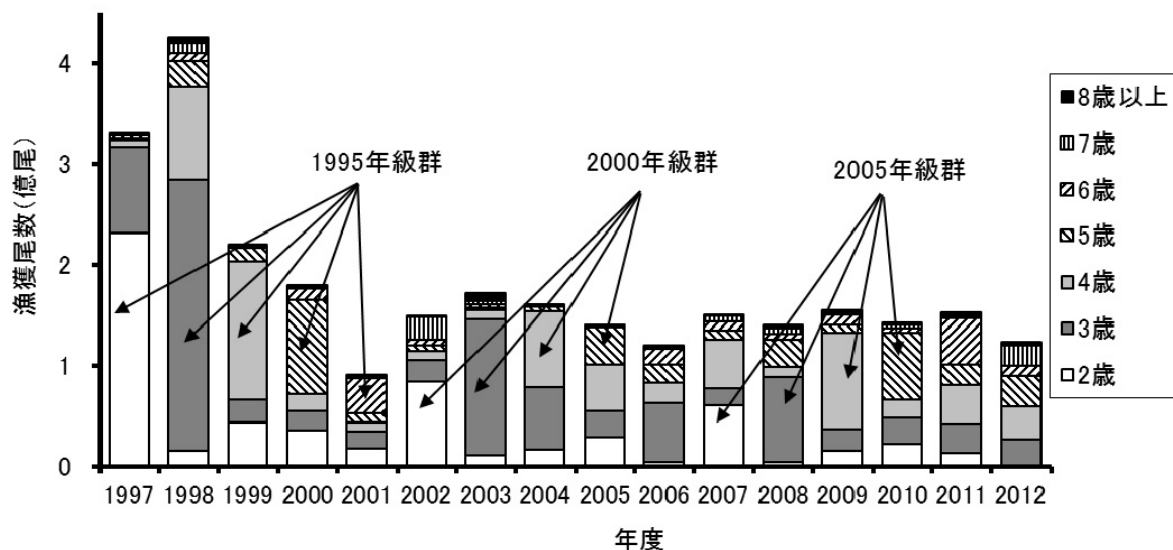


図7 道東太平洋における沖合底びき網によるスケトウダラの年齢別漁獲尾数

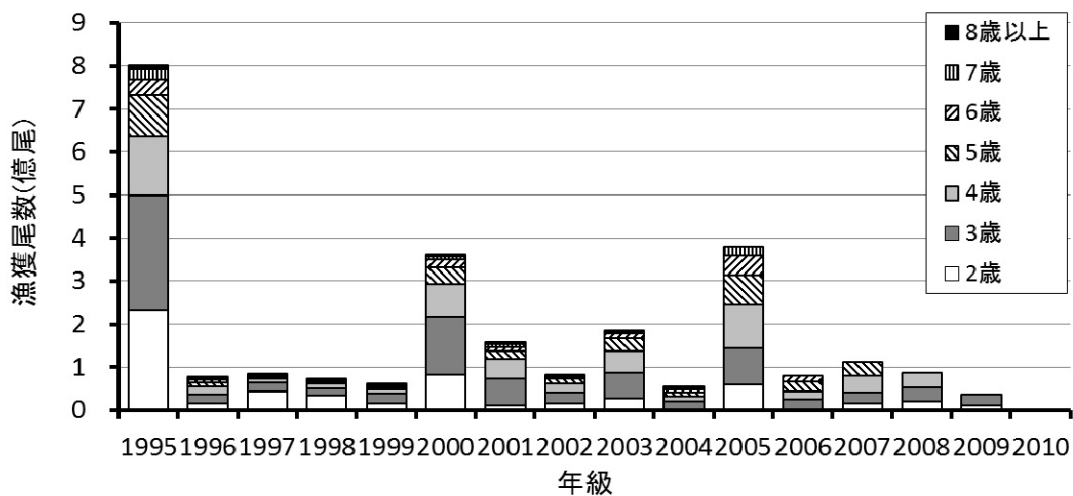


図8 道東太平洋におけるスケトウダラの年級群別累積漁獲尾数

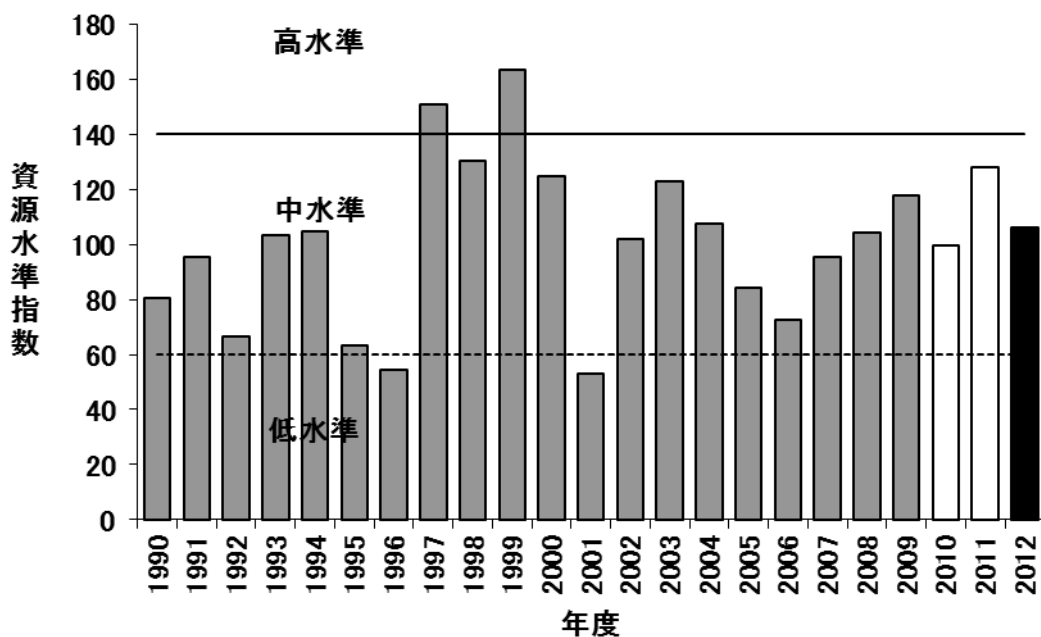
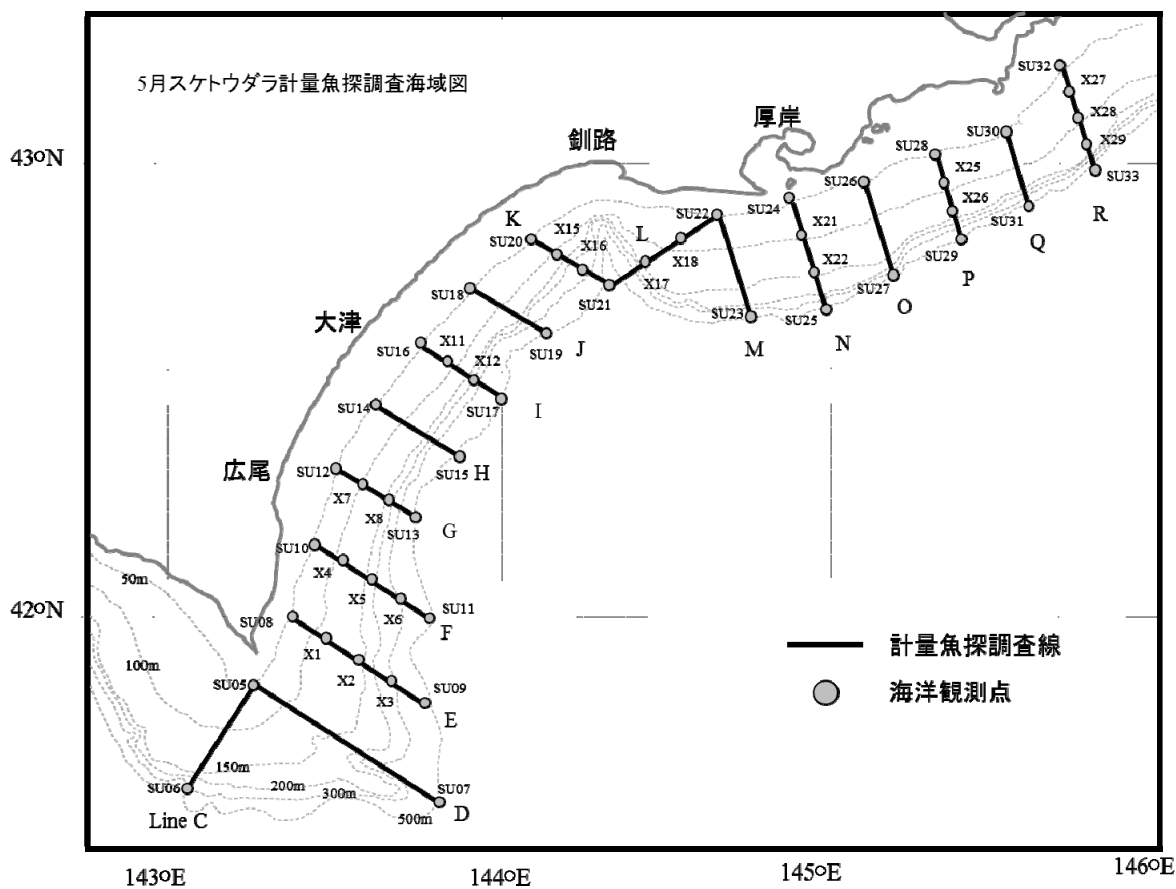


図9 道東太平洋海域におけるスケトウダラの資源水準
(資源状態を示す指標：沖底のトロールのCPUE)



付図1 道東太平洋における5月のスケトウダラ計量魚探調査の海域図

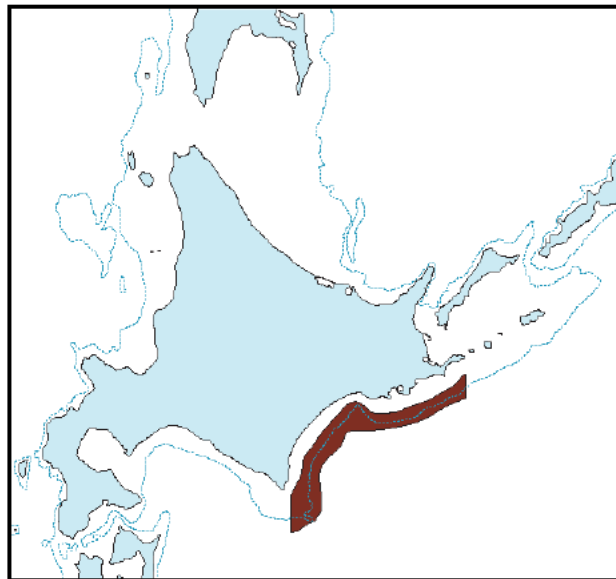
生態表 魚種名：スケトウダラ 海域名：道東太平洋海域（太平洋系群）

図 スケトウダラ（道東太平洋海域）の漁場図

1. 分布・回遊

太平洋側のスケトウダラは房総沖から千島列島にかけて連続して分布し、複数の産卵群が存在する可能性がある。当海域のスケトウダラは道南太平洋海域のものと同系群と考えられ、主産卵場は噴火湾と推定される。

2. 年齢・成長（加齢の基準日：4月1日）

(2～3月時点)

満年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳
尾叉長(cm)	12	24	32	42	43	45	48	50
体長(cm)				38	40	42	45	46
体重(g)	11	92	240	517	570	622	758	885

(0～2歳は2001年11月の試験調査船北辰丸によるトロール調査結果、3～7歳は1995年2～3月の漁獲物測定資料)

3. 成熟年齢・成熟体長（年齢は2～3月時点を示す）

- ・雄：3歳から成熟する個体がみられる。
- ・雌：3歳から成熟する個体がみられる。

(1996～2000年の2～3月における漁獲物測定資料)

4. 産卵期・産卵場

産卵期：道東太平洋海域における産卵期は1～4月とされており、大部分が3月に産卵するものと考えられる。なお太平洋系群の主たる産卵場である道南太平洋海域の産卵期は、12月～翌3月（盛期1～2月）である（スケトウダラ道南太平洋海域の生態表を参照）。

産卵場：道東太平洋海域における産卵場は小規模なものと考えられる。なお太平洋系群の主たる産卵場は道南太平洋海域に形成される（スケトウダラ道南太平洋海域の生態表を参照）。

5. その他

なし

6. 文献

なし